紹介

◎圖書

◎訂正增補大日本時代史　十二册

早稻田大學出版部先きに大日本時代史(十册)を出版して豫約者に頒ちてより既に八星霜、此間斯界の進歩と共に重要史料の新に發見せられたるもの、史論の訂正を要すべきもの二三にして止らず、且其完本の坊間にあるもの殆んど絶無となれるより、昨年五月以來滿一年間を期して其訂正增補版(十二册)を豫約者に頒つことゝせられ、こゝに其完成を告げたるは學界の爲め慶賀に堪へず。今これを見るに、古代史及德川時代史を各々二册宛に改めて全部十二册となし、各册(幕末史を除く)共に各其著者の改訂を經て或は字句を改修し或は章節を分合して其面目を一新せり。就中久米博士の古代史及奈良朝時代史及南北朝時代史を暢達平易なる文章に改め古代史には高麗好太王碑の寫眞及其讀本と文學士今西龍氏の「廣開土境好太王陵碑に就て」と題する一論文を附收し、三浦博士の鎌倉時代史には元寇勳壘の寫眞を加へ、吉川本吾妻鏡以下の新史料等を參取して隨所に原文を補修し且つ幕末顛覆に至るの記事を追加し、渡邊世祐氏の室町時代史には足利學氏の性格の評論を新にし義持元服の事に關する「春の世の夢」の記事及應永廿六年の朝鮮來寇の記事を削り、同氏安土桃山時代史には、織田氏の祖先に關する新研究を加へ、武田晴信と足利義昭との聯合、晴信の對園城寺策、信長の成功と朝山日乘安國寺慧瓊等緇徒の斡旋を記述せるは其著しきものなり。(早稻田大學出版部發行)〔中村〕

◎歷史と人物　文學博士　三浦周行著

本書は博士が史的研鑽の傍ら、起草せられたる史的人物論の中廿有六篇を輯錄したるものにして、紙數七百餘頁實に前後二十有餘年に亘れる勞作の一端なり。古來史的人物論の世に公にせられたるもの少からざるも、概ね人物の外面的描寫に止るか、又は俗書虛僞を根據とす、然るに幾多波瀾に富める史上著名の人物は複雜錯綜せる社會の事情に圍繞せらるゝが故にこれが史的批判は容易の事にあらず。著者は其該博なる智識と、鑑凝なる史眼とを以て、精緻なる史的考證を經曲折多き人生も、極めて明快に論斷し、一般の誤解を招ける人物はこれを正せり。態度愼重、著眼公平、加ふるに溢るゝ如き同情を以てす、文章また流麗にして暢達到る處警句あり、諷刺あり、諧謔ありて、興趣盡くることなし。今書中の數章に就て其人物批判の立脚點の一端を覗はんに、源義

仲論に於て著者は世上の平氏排斥に對して政治上の閥族は必らずしも藤原氏に限らるべきものにあらざれば平氏に限つて冷靜なる批判を求むるは酷なりと辯じ義仲の最後に至つて其心事を憐み歴史上の遺勅や朝敵の語は多少の寛容を以て見ざるべからずと喝破し、曾我兄弟の仇打を論じては北條時政の假面を剝ぎ、鎌倉時代の二大女流政治家丹後局、卿局及び室町時代の日野富子を論じては波瀾多き是等女性を中心として時代の闇黑面を描寫し、萬里小路藤房の遺蹟を論じては江戸時代の社會組織を說く、時代思想の意義を說明して國民楠公觀の推移を論じ、賢俊僧正と夢窓國師を提へ來つては室町時代に、俗界に於ける僧侶の地位が如何にして築きあげられたるかの眞相を詳說し、疑問の人物朝山日乘の一生を說いては一波萬波を生ずる戰國時代の大觀を開展し、朝山意林庵を傳しては近世の學風の淵源に遡り、加藤清正島居元忠を提へては武士道を說き、赤穗義士、乃木大將の最後に於て法制を論じたる如き皆人物史家ならぬ著者の人物觀を窺ふべきものにあらざるはなし。（東亞堂發行、價二、八〇）（魚澄）

◎奥羽沿革史論　日本歴史地理學會編

昨夏奥州平泉の古址に開かれたる夏期講演會に於ける講演速記を修訂して編輯したるものなり。第一、日本史上の奥州（文學博士原勝郎氏）は、上古より足利末に至る沿革を論じて奥州文化が南方日本の文化より遲れたる事を指摘し、奥州史研究は奥州人將來の發展に資すべきことを論じ。第二、蝦夷の馴致に對する努力の跡、（文學博士喜田貞吉氏）には、古來蝦夷の馴服と奥羽の拓植、彼等が抱ける誠忠無二の思想の淵源由來を詳說す。第三、前九年役と後三年役（文學士岡部精一氏）此兩役は東北豪族中央政府兩勢力の衝突なりとて其戰役の經過及史料地理の說明をなし、第四、平安朝佛敎史上に於ける中尊寺の地位（文學博士辻善之助氏）は上方文化の移植は淸衡の大目的たりし事を說き、中尊寺・毛越寺の文化史上・佛敎史上の地位が京洛の寺院よりも重大なる意義を有すと論ず。第五、藤原三代の事蹟と源頼朝の奥州征伐（文學士大森金五郎氏）は三代の事蹟を說き、其豪奢を描き、轉じて頼朝の奥州征伐の意義は單た義經追討に非ずとし、上方文化と奥州文化の融合に言及す。第六、南北朝時代に於ける奥州（文學士藤田明氏）は此時代に於ける奥羽の地位を論じ、陸奥太守・鎭守府大將軍の活動を描き、九州南朝史と比較して、顯信等多年の經營が、九州の如く宮方をして忽に凋落せしめざりし事を言ふ。第七戰國以後江戸時代の奥羽（文學博士吉田東伍氏）戰國より統一に至る間の史實を說き、江戸時代の大名・產業・交通を說明す。最後に第八、福井利吉郎氏の「藤原時代の美術と中尊寺」の講演要領